

2E-47

特16
575

164
2

邪徒退治篇
完

廣瀨義造著

立正社發行

019956-000-4

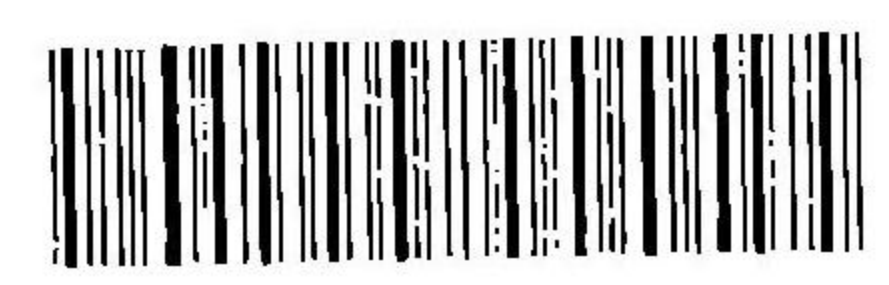
特16-575

邪徒退治篇

廣瀨 義造 / 著

M26.12

ABH-0097



邪徒退治篇自序

今や宇内文明の氣運は紅旭の天に昇るが如く
 各邦人民の道德と智識とを一新せんとするの
 秋の芳めて我が佛教の眞理煥然輝光を發して
 六合を照らし邦の東西を論ぜべき色の黄白を問
 はす懸くはつて佛陀の教に歸依せんとするの
 勢あるは誠には是れ慶賀すべきの至りなり
 此時に於て我が日本は大乗有縁の土を以て
 東洋佛教の中心たる地位を占め他日世界宗教
 革命の氣運は我邦より勃發すべきこと固より



言を咲たぎ然るに奈何せん斯る、好時機と好
氣運とも係はらぎ我が佛教眞理の進路を遮る
もの一にして足らぎと雖ども之を大別すれば
蓋し内外二種の障礙あり所謂内障礙とは外佛
教の假面を装ふて内佛教の眞理を亂り嫉妬の
念を抱て謗法の罪を犯し獅子身中の虫となり
て外敵をして間に乗せしむるものは是れなり次
に外敵等は耶蘇教等の外教にして佛教の眞理
に悖るものなること言を咲たぎるなり
然り而して此内外二種の障礙は其害孰れか尤

も甚きやと云ふも吾人は外障礙よりも外障礙
こそ其害尤も甚くと云ふんとす何となれば教
外の害は見へ易くして教内の害は見へ難きを
以てあり
抑も吾人は何によりて斯る言を發するやと
云ふに近頃金澤に石上敬虔と稱する一個の念
佛宗徒あり日蓮宗非佛教論と題する一篇の小
冊子を著せし本宗を誣毀して其極に達す今
や彼れが言ふ所を取りて一一之を檢閲するに
牽強附會妄誕不經の邪説にして毫も根據ある

ことなく敢て齒牙に掛るに足らざと雖ども天下の愚夫愚婦を迷はすものは從來精確の議論に在らざして却て此等狂妄醜陋なる妖説に在り依りて吾人が我が佛教眞理の進路を障礙するものを排除するの一端として茲に邪徒退治篇を草して破邪顯正の微意を表す抑も千斤の弩は鼯鼠の爲めに發せき而して螳螂の斧は龍車に向ひ難し吾人よして邪徒退治篇を草して日蓮宗非佛教論の妄を辨す豈に眞に彼れを以て共に辨難するの價値ありとせん

や是れ亦た萬止むを得ざるの勢吾人を驅りて此と爲さしむるなり

明治廿六年十一月

大阪

著

者誌

邪徒退治篇目次

論 據

日蓮は本化は菩薩日蓮は墮獄の鬼と云ふに
反對す

日蓮の大慈悲心(日蓮の野心と云ふに反對す)

日蓮の大活眼獨り教佛の眞理を看破す(日蓮か
淺學他經を知らすと云ふに反對す)

結 論

邪 徒 退 治 篇

廣 瀬 義 造 著

吾人か日蓮宗非佛教論の著者一流の輩を目して邪徒とし其

邪説を痛撃して國家の深患大害を絶たんと欲する者は其論

旨の眞理に俾て佛教に違ふによるあり今吾人か日蓮宗非佛

教論の論旨に反對する所以の論據たる左の如し

第一日蓮宗の宗祖たる日蓮聖人は佛陀の本懷を剛明し純正

の佛教を主唱したるを以て本化の大菩薩にして墮獄の鬼

にあらざるを

第二日蓮か立教開宗の主眼は佛教を光闡するにあるを以て

野心を逞ふするものにあらざるを

第三日蓮聖人は無量義經の四十餘年未顯眞實の文に依據し

たるを以て其立てたる教理は純正の佛教なるを

吾人は是れより進んで前陳三個に據りて詳記審陳し以て彼れ日蓮宗非佛教論の著者をして愧死せしめんと欲す

第一 日蓮聖人は本化の大菩薩

日蓮宗非佛教論の著者か日蓮聖人を指斥して墮獄の鬼と云へる大不敬の言を放ちたるの理由は果して焉くにあるやと詰問するに第一深密傳の抜抄第二花園天皇の院宣第三謗法の罪是れなり
第一日蓮宗非佛教論の著者の日蓮深密傳に據りて日蓮聖人を穢多の子ありと斷言す夫れ日蓮聖人果して穢多の子なりとするも決して日蓮聖人の聖徳を害するものにあらず穢多の子にして日本帝國に一大新宗を開き上は王儲大人より下の庶民に至る迄之に風靡歸依すとせば愈々以て日蓮聖人が非凡の大豪傑非凡の大聖賢にして本化出現の大菩薩たるを

知るに足る観音は種々の身に其生を現し或時の國王となりて斯世に生し或時は婆羅門となりて斯世に生し或時は女人となり乞丐となりて斯世に生る是皆衆生濟度の方便のみ日蓮聖人は穢多の子あるが故に信す可らすと云ふが如きは是れ誠ニ佛教家に似合はざるの俗論と云つべし而して日蓮宗非佛教論の著者が眞正の佛教徒にあらずる亦た以て推知すべきのみ源平藤橘の四姓の古來我邦の名門閥族なり而して日本至大の英雄豊大間は源平藤橘の家に生れず日蓮聖人にして果して穢多の子たれば最も以て世間門閥崇拜者の俗臆を破るに足る然るに彼れ石上敬虔一流の輩は果して何者ぞ自ら佛徒と稱して靦然此の俗論をなす是れ豈に佛教の罪人にあらずや
然れども日蓮聖人は不幸にして穢多の子にあらずして鎌倉

流請の士人貫名重忠の子貫名氏は井伊氏に出で井伊氏の先
 は大織冠鎌足公に出ること正史本傳に昭々として掩ふ可ら
 ず深密傳の著者は將た何の據る所ありてか斯くは斷言し得
 るや抑も日蓮聖人の傳紀を觀るには別頭統記あり高祖年譜
 あり眞實傳あり然るに石上敬虔一流の輩が是等の正史本傳
 に據らずして特に深實傳にのみ據りて日蓮聖人の事蹟を談
 ずるものは其奸心の在る所以て知るべきなり
 抑も深密傳を以て何人の著作なりと思ふや是れ神宮寺日進
 と云へる念佛淨土の奸僧が其宗の間諜とあり偽りて日蓮宗
 の軍門に降り其身は日蓮聖人を以て怨敵と認め乍ら自ら名
 を日蓮宗徒に假托して以て我が宗祖を外讐内毀表活裡殺し
 たる卑屈奸偽隱謀無慚愧の穢作なり夫れ世の英雄豪傑が戰
 を爲すにも堂々の陣法を用ひて卑屈隱險の手段を用ひざる

を貴ぶに彼れ神宮寺日進(偽名)あるものは自ら一派の宗教家
 を以て任じ乍ら何故に此卑屈隱險而かも淺薄可笑の手段を
 用ひたるや念佛淨土の宗派にまて此の如き人物を出だした
 るは是れ誠に法然親鸞の耻なり又佛教徒の中に此の如きの
 人物を出だしたるは是れ佛教の耻なり而して今日に在りて
 は此深密傳か念佛淨土の信徒の手に成りたるは天下一人と
 して之を知らざるものなきに至れり(聞く大内青嶺氏の如き
 は之に就て明白なる證據を有す)と左れば其奸謀詭計も亦た
 拙なりと謂つべし而して今や日蓮宗非佛教論の著者は此書
 を引て日蓮聖人の奇蹟を談ず知らずして之を引證したりと
 せば是れ自ら其不學無識を吹聴するものなり知らずして之
 を引證したりとせば是れ自ら其奸謀詭計の陋拙淺薄可笑を
 示めするものなり日蓮宗非佛教論の著者石上敬虔一流の輩の

夫れ必き一に此に居らん
 第二石上敬慶一流の輩は花園天皇の延慶三年の御院宣を引
 て以て我日蓮宗を非議せんと欲す是れ亦た尤も笑ふべきの
 至りなり石上敬慶諦に聴け汝は是れ淨土念佛の信徒にあら
 ずや然るに汝が祖師と尊崇する法然若くは親鸞は如何ん嘗
 て朝廷より罪を被りて追放せられしにあらずや其時の院宣
 の果して如何亦た此延慶三年の院宣に異あらざるのみ汝若
 し之を疑はゞ左に天福二年の院宣を引て汝輩一流の奸膽を
 して寒らしむべきあり

四條天皇陛下の御院宣
 頃年以來無慚之徒不法之侶不守如如之戒法不恐處處之嚴
 制恣建念佛之別宗猥謗衆僧之勤學加之内擬妄執乖佛意外
 引哀音蕩人心遠近併歸專修之一行繼素殆偏顯密之両教佛

法之衰減而由斯自由之姦惡賊禁而有餘是以於教雅法師者
 温本源遠流此外同行餘黨等借停廢其行於帝王之中悉追卻
 其身於洛陽之外但或爲自行或爲化佗於至心專念如法修行
 之輩者不在制限

天福二年六月晦日

藤原中納言權辨

被仰付祇園執行

看よ看よ是れ何等の院宣なるぞ若し彼れ延慶三年の院宣日
 蓮上人の盛徳を累はすべくんば此れ天福三年の院宣法然親
 鸞の二人を累はすこと果して如何んぞや天を仰て唾し劍を
 抜て自殺すとの堂に石上敬慶一流の輩を誦ふにあらずや斯
 くて延慶三年の院宣は日蓮宗を痛く禁せられたるにも係り
 らず後醍醐天皇の時に至りては我が宗祖に日蓮大菩薩の號
 を賜りたり是れ所謂天定りて復た能く人に勝つものにあら

ずして何んぞや石上敬虔一流の輩亦た以て深く思ふべきなり
第三石上敬虔一流の輩は日蓮聖人四個の格言を以て謗法の
罪とす是れ何等の愚言なるぞ夫れ小乗は大乗と同く釋尊の
説き玉ひし法門なり然るに馬鳴龍樹世親等の諸菩薩は専ら
大乘を主唱して小乗を破し玉ふ然らば是れ馬鳴龍樹世親等
の諸菩薩も亦た謗法の罪を免れざるか實は可笑の甚きなり
汝か祖師と稱する法然親鸞と雖とも亦た然り彼等にして聖
道門を棄て、淨土門を唱ふ是れ淨土門が今世衆生の機根に
合し成佛の速路ありと自信するが爲めあり而して其極や此
土の教主釋尊を棄て、西方十萬億土の他界教主彌陀に歸依
す是れ亦た謗法の尤も甚きものにあらずや
又其日蓮上人を以て日本の諸神を輕蔑し伊勢の大神宮及び

正八幡宮等に參詣す可らずと教へ玉ふと斷言するが如きは
廻罔の尤も甚きものなり吾人は此に到りて石上敬虔一流の
輩が天下の無耻漢にあらざれば則ち無耻漢なるを知るなり
夫れ我か宗祖日蓮の始めて開教立宗の大願を起し玉ふや先
つ伊勢の大廟に詣て誓文を獻じ玉ひしこと正史本傳に昭々
たり之に反して淨土諸宗の祖師が西方專念彌陀一佛の法を
唱へて日本固有の神祇を蔑如し往々之を水火に投せしこと
は彼れ水滸の儒者相澤伯民藤田東湖の諸氏が大に慨歎せし
所あり石上敬虔一流の輩の抑も何の見る所ありてか此の如
き廻罔の言を發するぞ海内正義の士は誰れか彼等の肉を食
ふことを欲せざるものぞ已れ盜して人盜すと云ひ已れ淫し
て人淫すと云ふ廻罔の罪も亦た極れりと謂ふべし

第二 日蓮聖人の大慈悲心

石上敬度一流の輩は恐れ多くも我か宗祖日蓮聖人を罵りて
野心を懐くの罪人とす其言に曰く

日蓮の衆生をして轉迷開悟せしめんとして立教開宗し
たるものにあらざして其身の穢多あるを諸人又輕賤せ
られたるを憤り天下の主たらんことを企て民心を集攬せ
んが爲めに法華經を天台に盗み是を千軍萬馬の内より利
用せんと謀り終に一宗を起したるものにして即ち一大
野心に出たるものあると明なりその日蓮は北條將軍を
討て天下の政權を掌握せんとしたる事實は載せて日蓮
深密傳にあり

嗚々是れ何等の狂言ぞ深密傳の信するに足らざること既に
前述するが如し而して石上敬度一流の輩は猶ほ此書を引て
聖人を傷けんと欲す恰も盲目漢が白晝燈を照じて暗夜とす

るが如し天下豈に其愚を笑はざらんや夫れ深密傳の信する
に足らざることば天下の識者皆明に之を知る而して石上敬
度一流の輩のみ獨り之を以て信なりとして以て日蓮聖人の
聖徳を傷けんと欲す是れ白晝燈を點じて暗夜なりとし以て
人家に入り窃盜を行はんと欲するの盲目盜にあらざして何
んぞや其醜其拙可笑なり

抑も日蓮聖人の天資の大豪傑なり故に聖人をして佛教に歸
依し菩提心を發せしめざれば聖人が北條將軍の罪を鳴らし
て之を討し以て勤王の大義を唱へられたらんとは固より疑
ふべきにあらざるあり彼の悍然凶器を執りて一天萬乘の至
尊に敵し奉り三帝を執へて之を絶海僻陬に遷し奉たる北條
氏の眞に國賊なり苟も勤王の大義を懐くもの誰か之を討伐
するを欲せざる者有んや然ば深密傳の著者が聖人を以て

討逆揚義の志ありとするものは偶々以て聖人の豪傑たる所
 以を觀るに足れるのみ而して石上敬虔一流の輩が之を以て
 聖人却て逆心を懷くもの、如く斷言するは是れ誠に本勝に
 生れ乍ら大義名分の何物たるを辨へざるの奸究鼠賊のみ
 又次に日蓮上人を以て法華經を天台に盗みたりと云ふに至
 りての思ひざるの甚きものなり夫れ日蓮聖人は叡岳に登り
 て天台の奥義を究め玉ひたること十年の久きま亘り毎に天
 台傳教の二先師を推尊して天台傳教吾無間然焉とさへ宣ひ
 しことあり然らば聖人が天台の純粹なる教義を替して慈覺
 等の糝糠を去り玉ひしこと、明々白々自認し玉ふ所あり石
 上敬虔一流の輩は何の故に法華經を天台に盗むと云ふや夫
 れ所謂盜むとは其實を取りて其名を辞するの謂ひなり然る
 に今や聖人は明々白々に天台傳教の教義を替し玉ふ何の故

に之を盗むと云ふ歟彼等が事理に達せざるも亦た甚しと謂
 ふべし而して敢て我日蓮宗に反對せんと欲す是れ誠に蜂蟻
 大樹を撼かすの類のみ
 石上敬虔一流の輩は北條氏の叛逆を慈み勤王の志あるもの
 を目して大惡無道國恩を忘る、ものとする然らば楠正成は是
 れ國恩を忘る、ものある歟新田義貞は是れ國恩を忘る、も
 のある歟名和長年は是れ國恩を忘る、ものなる歟菊池武重
 は是れ國恩を忘る、ものなる歟敢問々々
 次に石上敬虔一流の輩が日蓮聖人が建長寺の方丈道隆に贈
 りたるの書簡を以て日蓮の徳を累さんとす是れ亦た經岡の
 甚きものなり抑も日蓮上人が蒙古襲來の事に關して建長寺
 の道隆に書簡を與へけるは文永五年よりあり而して此偽作の
 書簡は文永三年にありと云ふ今試に之を對照するときは偽

作の偽作たること明白なり乞ふ之を左に對照せし

與建長道隆書

夫佛閣並軒法門拒室佛法繁華超過身毒支那僧寶形儀如六通羅漢雖然於一代諸經未知勝劣淺深併同禽獸忽拋三德釋迦如來而信他方佛菩薩是豈非逆路伽耶陀者乎念佛者無間地獄業禪宗天魔所為真言亡國惡法律宗國賊妄說云云爰日蓮去文應元年之比勘之書名立正安國論以宿屋入道奉故最明寺殿此書所詮念佛真言禪律等信惡法故天下災難頻起剽目他國可被責國之由勘之然而去正月十八日牒狀到來日蓮所勘之少不違令符合諸寺諸山祈禱威力滅故歟將又惡法故歟鎌倉中上下萬人道隆聖人如佛而仰之良觀如羅漢而尊之其外壽福寺多寶寺淨光明寺長樂寺大佛殿長良等我慢心充滿未得謂為增上慢大惡人何蒙古國大兵可令調伏乎利日本

國中上下萬人悉可成生取今世亡國後世必墮無間日蓮申事無御用者後悔可有之此趣鎌倉殿宿屋入道殿平左衛門尉殿等令進狀之候寄集一處而可有御評議候敢而非日蓮私曲之義只任經論文處也具難載紙面併期對決之時書不盡言言不盡心恐恐謹言

文永五年十月十一日

日蓮花押

進上建長寺道隆上人

又次は偽作の書簡を掲ぐべし

偽作の書簡

昨日拙僧於濱邊可為斷罪之處以大禪士之御慈悲滅死罪一等可被處遠流誠禪師之大恩世々生々難忘昨日御慈悲之無賢使者日蓮并門徒之滅亡無疑後日有露命者何豈不奉報其思也右之通侍者中宜敷請上達

文永三年九月十四日

日蓮百拜

建長寺方丈和尚

試に思へ此二書は果して是れ一人の口吻に出でたるものなるか日蓮聖人よして文永三年の書簡を道隆に與へたりとせば必ず文永五年の書簡を道隆に與へず若し又た文永五年の書簡を道隆に與へたりとせば必ず文永三年の書簡を與へざるや明々白々疑ふ可らざるあり嗚呼此の如き三尺の童子をも欺く可らざるの奸謀詭計を以て日蓮聖人を傷けんとす其淺薄可笑亦可憐なり

抑も日蓮聖人か立正安國論を北條幕府に獻して諫言したるものゝ妄りに北條氏を誣毀したるものにあらずして至誠裝心北條氏をして過を悔ひ善に遷り速に國難天災を消滅せしめんとの大慈悲心に出でたるものあり猶ほ是れをしむ野心

と謂ふべきか又聖人か四個の格言を唱へて天下を聳動したるものは釋尊出世の本懷を明にして一天四海妙法に歸せしめんとの大慈悲心に出でたるものにして決して同を好み異を憎むの嫉妬心に出たるものにあらず猶ほ是れをしむ野心と謂ふべきか

此外石上敬虔一流の輩は例の安土問答を引來りて喋々すと雖ども是れ彼れの傳ふる所と我れの傳ふる所とは互に同らず局外傍觀の人にあらずるよりは誰れか公平の判断をあることを得んや今や事實を以て彼を噓さんとするも彼れの冥頑不靈なる或ハ一朝よして其非を噓らざるべし因て姑く之を他日よ譲りて以て彼の鐵面皮を剥き去るべし

第三 日蓮聖人の大活眼獨り佛教の眞理を看破す彼れ石上敬虔一流の輩は日蓮か淺學他經を知らず杯誇大な

る題を掲げ來りて佛の無量義經に説き正へたる四十餘年未
 顯眞實とは成道より以後四十餘年間の法華を説くの機熟せ
 す故に其眞實を顯はさゞりしとの意なるを義經の全体に於
 て知る明なりと云ふ是れ何等の狂言ぞや苟くも他宗に向つ
 て議論を試るの人物あれば因明の作法若くは「ロヤン」の論法
 をも一と通りは心得るべき筈るかに此不因故此不論理の言
 をあす豈に愧死すべきにあらずや
 抑も彼が所謂成道より以後四十餘年間の説法は方便にてあ
 りしとの意と四十餘年間法華を説くの機熟せず故に其眞實
 を顯はさゞりしとの意とは更に何の異なる所あるか是れ豈
 に同一の眞理を言ふものにあらずや法華經の眞理の即ち佛
 教全體の眞理あり四十餘年間未顯眞實の眞理は唯だ法華經
 の眞理として佛教全體の眞理にあらずと云ふの如何なる因

據ありて之を言ふ歟蓋し此四十餘年間の未顯眞實の佛教全
 體の眞理たることは正直捨方便但説無上道と云ふ他處の明
 文に徴しても亦た明かり苟くも法華經にして佛の所説にあ
 らずとせば則ち止まんのみ苟くも法華經にして佛の所説あ
 りとするときは則ち此四十餘年間未顯眞實の明文の沒了す
 可らす而して此四十餘年未顯眞實の明文は佛教全體に就て
 立説するものにあらずして何んぞや何とあれば他に種々の
 經ありと雖とも之に均く明言せられたるもの未だ見ざる
 所なり

左ればにや石上敬虔一流の輩の曖昧ある言を放ち此四十餘
 年未顯眞實の明文は唯だ法華經の眞實にして佛教全體の眞
 實を云ふにあらずと詭辨を弄し以て世人を瞞着せんと試み
 たるも何か薄氣味悪しき所ありと見へて法華經と浄土の觀

經との同時の經なり杯と放言す夫れ四十餘年未顯眞實の明文にして唯だ法華經の眞理のみを云ふものありとするときは此の如く淨土の觀經は法華經と同時の經なりと放言するの必要は焉くにありや

若し又四十餘年未顯眞實の明文の唯だ法華經の眞理のみを言ふものとするときは釋尊か他經を説き玉ふにも亦た此未顯眞實の詞を用ひ玉ふべき等なり然るに千餘卷の他經に於ては然らずして獨り此に未顯眞實と宣ふものは其意豈に獨り法華經のみにあらんや其佛教全體にあること知る可きあり況んや火宅の喩と云ひ窮子の喩と云ひ文殊支利の提問と云ひ荷も一應佛教を觀るの學識を具ふるものは亦た誰か此未顯眞實の一句は即ち佛教全體に關するものあることを疑はんや而して石上敬虔一流の輩之を察せず何の因據もあ

して此の如きの放言を出す是れ獨斷の見にして論理を知らざるものなり抑も石上敬虔一流の輩が斯く迄も妄誕不精の論を立て、我が日宗に抗抵を試みるもの其旨趣果して焉くにありか是れ我が宗祖日蓮聖人が四個の格言は妄りに彼の念佛淨土の宗旨を詆毀し玉ふと誤解して斯くの狂毒を恣にせんと欲するものにあらざるか

夫れ日蓮聖人が四個の格言を唱ふるや其意剗切其論精確所謂万古不磨の金言なり今試に其念佛無間と主唱し玉ふ所以の一節を高祖遺文録より技抄して彼が輩に示めすべし次に念佛は是れ淨土宗所用の義也此れ又權教の中の權教也譬は夢の中の夢の如し有名無實にして其實無き也一切衆生願ふて所詮なし然れば所云佛も有爲無常の阿彌陀佛

也何ぞ常住不滅の道理にしかんやされの本朝の根本大師の御釋に云く有爲報佛夢中權果無作三身覺前實佛と釋して阿彌陀佛等の有爲無常の佛をば大きにいましめ捨をかれ候也既に憑む所の阿彌陀佛有名無實にして名のみありて其跡なからんには往生すべき道理をば委く須彌山の如く高く立て大海の如くに深く云ふとも何の所詮あるべきや

是れにて日蓮聖人の一言は法然親鸞等か建立したる淨土門の一宗を微塵に打ち碎きて還す所なしと云ふべし左れば其末流の徒が今日に方りて狼狽して種々の絶辨を以て我が日蓮に敵するも亦た其謂はれなきまゝあらざるへし然れども記しよ眞理の最後の勝利者あるを汝か輩如何に狼狽するとも一天四海終に妙法に歸するの秋あることを

也何ぞ常住不滅の道理にしかんやされの本朝の根本大師の御釋に云く有爲報佛夢中權果無作三身覺前實佛と釋して阿彌陀佛等の有爲無常の佛をば大きにいましめ捨をかれ候也既に憑む所の阿彌陀佛有名無實にして名のみありて其跡なからんには往生すべき道理をば委く須彌山の如く高く立て大海の如くに深く云ふとも何の所證あるべきや

是れにて日蓮聖人の一言は法然親鸞等か建立したる淨土門の一宗を微塵に打ち碎きて還す所なしと云ふべし左れば其末流の徒が今日に方りて狼狽して種々の絶辨を以て我が日宗に敵するも亦た其謂はれなきまゝあらざるへし然れども記應せよ眞理の最後の勝利者あるを汝か輩如何に狼狽するとも一天四海終に妙法に歸するの秋あるとを

結論

吾人は既に彼れ石上敬虔一統の聖か立て來りたる三個の論據を辨破して還す所なれり則ち其反面に於て我が日宗の眞理を証明したる亦た首を擧げたる所なり希くは天下具眼の人彼が輩に瞞着せられずして速に妙法に歸して正を立て、以て國家を安んずべし是れ吾人が切に祈望する所なり

明治廿六年十二月四日印刷
明治廿六年十二月十二日發行

定價金四錢

大阪府西成郡曾根崎村八百四拾壹番屋敷

著述者 廣瀬義造

大阪府北區網笠町四十五番邸

發行兼印刷者

島山久

大阪府西區阿波堀通二丁目六番邸

印刷所 山口恒七

大阪府北區網笠町四十五番邸

發行所 立正社

大阪府北區網笠町四十五番邸

大賣捌所 島山久

大阪府淡路町二丁目

全 金川善兵衛

京都市上京區東洞院三條上元

全 村上勘兵衛